

トランスヒューマンの権利に関する 試論的考察

朱 穎嬌

山口大学経済学部講師

zhu.yingjiao@yamaguchi-u.ac.jp

報告の概要

I. トランスヒューマニズムの意味

II. トランスヒューマンの権利に関する主張

III. トランスヒューマンの権利の法的保護の可能性

I. トランスヒューマニズムの意味

- ポストヒューマンパラダイム:

ヒューマニズム的伝統を超えて、非二元的、脱中心化された人間観の形成



カテゴリー的二元性の超越:

自然—文化

人間—機械

男性—女性

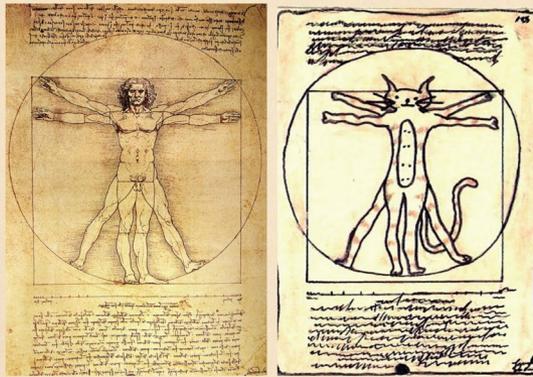
...

「人間は常にポストヒューマンであった」(Hayles, 1999)

I. トランスヒューマニズムの意味

リベラルアーツで学ぶ ポストヒューマン

生駒夏美 編著



私たちはなにものになっていくのか

人間とは何か。歴史が動くとき、いつもリベラルアーツは人間観を見直してきた。今またリベラルアーツが注目されているのは、ポストヒューマン時代に突入したからだ。これからの時代をどう生きるべきか。「明日の大学」ICUが次世代に問い、リベラルアーツの世界へと誘う。

東信堂

- ・地球環境問題への意識から来る反人間中心主義

- ・テクノロジーの発展から来るAIロボットへの志向

- ・フェミニズムから来る男性中心主義批判

I. トランスヒューマニズムの意味

- ポストヒューマニズムとトランスヒューマニズム：
「ポストヒューマン」という目標が共有されていると言えるが、
両者は異なる文化的背景をもっている

ポストヒューマニズム

- ドゥルーズやフーコーなどのポストモダンのフランス思想家、特に1977年にこの用語を作ったイーハブ・ハッサンの哲学にその起源をもつ

トランスヒューマニズム

- アングロアメリカ世界の科学的進化論の伝統、特にこの用語を作ったジュリアン・ハクスリーに遡る

I. トランスヒューマニズムの意味

- ・トランスヒューマニズムという概念：

- ・Julian Huxley 『New Bottles for New Wine』(1957)

「人間は人間のままでありながら、自らの人間性についての新しい可能性、かつ、そのための新しい可能性を実現することによって自らを超越する」

⇒ 科学技術、社会的・文化的変化等を通じた人間の自己超越を指すものとして、「トランスヒューマニズム」が用いられた

- ・今日では、トランスヒューマニズムは、科学と技術によって人間の状況(human condition)の改善・向上を目指す思想や考え方を指す

I. トランスヒューマニズムの意味

- 二つのトランスヒューマニズム：
 - Classic transhumanism (CT) :
 - FM-2030
 - Max More
 - Natasha Vita-More
 - Nick Bostrom
 - Ray Kurzweil
 - Euro-transhumanism (ET):
 - Stefan Lorenz Sorgner
 - Yunus Tuncel

I. トランスヒューマニズムの意味

- CT vs. ET:
 - ・CTはハイパールネツサンスの完璧主義の理想を提示してきたが、ETは善の概念の根本的な多様性を受け入れ、それゆえに**形態的自由の権利**を強調する
 - ・CTは楽観的な方法で世界を描写するが、ETは私たちの基本的な個人的状態を、私たちが欲望、願望、憧れをもつことによる、永久的な苦悩という解決不可能な状態と見る
 - ・功利主義は、CTにおいて支配的な倫理理論であるが、ETでは、文脈的解釈に基づく倫理の理解が支持されている

I. トランスヒューマニズムの意味

- CT vs. ET:

- 政治的には、CTはリバタリアニズムと同一視できる。ETにおいても、自由は中心的な役割を果たすが、その政治的立場は、社会民主主義的なリベラリズムという概念でより適切に表現できる

- マインドアップロードに焦点を当てるCTは、シリコンベースのトランスヒューマニズムを擁護するが、「私たちは常にサイボーグであった」ことや、遺伝子技術とBCIが個人の繁栄 (personal flourishing) を促進する最も有望な方法であることを強調するETは、炭素ベースのトランスヒューマニズムを代表する

I. トランスヒューマニズムの意味

- CT vs. ET:
 - ・不死を実現することは、CTにおける中心的な目標であるが、ETによれば、**健康寿命の大幅な延長**は広く共有されている目標である
 - ・CTによれば、規範的な目標は苦しみを克服することであるが、ETによれば、最も中心的な課題の幾つかに上手く対処しようとすることで、現実的な目標に焦点を当てるべきである
 - ・CTは自らを啓蒙主義の伝統の中に位置づけているが、ETは啓蒙主義の哲学的基礎との曖昧な関係を強調し、ロゴス中心主義を単純に肯定することを強く批判している

I. トランスヒューマニズムの意味

- Sorgnerの弱いトランスヒューマニズム：
 - ・生物学的進化から完全に自由になるシリコンベースのトランスヒューマニズムを拒否する(非二元論的なパラダイム)
 - ・科学や技術をグローバルな理解からローカルな理解に移行させることで、様々なアプローチの対比と動的な補完性によって形作られた知識の世界において、文脈指向のパラダイムでそれらの科学技術を認識しなければならないことを強調する
 - ・科学、技術、進歩、ヒューマン・エンハンスメントの絶対化を回避する(多元主義とパースペクティビズム、技術の利益とリスク)

I. トランスヒューマニズムの意味

- Sorgnerの弱いトランスヒューマニズム：
 - ・リバタリアンタイプの強いトランスヒューマニズムが、過度の技術的楽観主義、ハイパーヒューマニズム、平等と連帯に対するイデオロギー的結びつきの欠如により、何らかの形の差別につながる可能性があることを認識する
 - ・人々の幸福のための共通の道德規範に基づく直接の道德的エンハンスメントに反対し、認知的エンハンスメントと、自由の実践としての柔軟な思考や解釈を組み合わせることによって、間接的に道德的エンハンスメントを達成する方法を支持する(善の非普遍的な多元性)

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

トランスヒューマニスト権利章典

Transhumanist Bill of Rights—Version 3.0

・権利主体として「知覚力のある存在 (sentient entities)」を想定し、以下のような存在を含む：

- 1) 遺伝子操作された人間も含めた人間
- 2) サイボーグ
- 3) デジタルインテリジェンス
- 4) 知的に強化された非人間的動物
- 5) 知的思考能力を有するように強化されたあらゆる動植物の種
- 6) その他の高度な知的生命体

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

トランスヒューマニスト権利章典 第1条

すべての知覚力のある存在は、この権利章典に記載されているあらゆる権利を、望ましいと考える程度まで追求する(まったく追求しないことも含めて)権利を有する。すべての知覚力のある存在は、人種、肌色、性別、ジェンダー、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国家的、社会的または惑星的起源、財産、出生(出生方法を含む)、生物学的または非生物学的起源、その他の地位など、いかなる種類の差別もなく、個人的決定の範囲内で、トランスヒューマニスト権利章典に規定されているすべての権利と自由を享受する権利を有する。

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

トランスヒューマニスト権利章典 第10条

知覚力のある存在は、形態的自由、つまり他者に害を及ぼさない限り、自己の身体的特徴や知能を好きなように扱う権利の支持に同意する。

...

形態的自由は、知性が進化することで生じうる未定義のサブカテゴリーを含め、すべての知性体を恣意的なサブグループまたは人口統計に分類するのではなく、個人として扱う義務を伴う。

...

いかなる知覚力のある存在も、法的・社会経済的影響を含む否定的な政治的影響を受けることなく、自己を修正しない自由を持つ。

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

- 形態的自由 (morphological freedom) の権利:

Anders Sandberg

形態的自由は「自己の身体に対する権利の延長であり、自己所有権だけでなく、自らの望みに従って自己を改変する権利」である

「消極的権利として、形態的自由は、誰も私たちが望まないように変化することを強制したり、私たちが変化することを妨げたりすることはできないということを意味している」

⇒ 身体の完全性と、他者による干渉を受けず、自己の身体を自らの希望、ニーズ、目的に応じて改変する(改変しない)ことに対する権利

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

- 形態的自由 (morphological freedom) の権利:

Anders Sandberg

私たちは、個人の意図的な行動によって生物学的に変化し多くの身体行動はアイデンティティや自己定義と深く結びついている(例えば、外見の変化、性別の変更)。意図的に自己変化する存在であることが人格の一部であるならば、それに不可侵の形態的自由が必然的に伴う

形態的自由の限界:

安全性、技術的・生物学的限界、私たちのアイデンティティを変えようとする意志、誤用(危害の生成)、自己実験の倫理、障害者の権利

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張



Neil Harbisson

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

CYBORG FOUNDATION

THE CYBORG BILL OF RIGHTS V1.0

- **Freedom from disassembly**
- **Freedom of morphology**
- **Equality for mutants**
- **Right to bodily sovereignty**
- **Right to organic naturalisation**

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

- Freedom from disassembly:

身体の完全性を享受し、適正手続なしに不必要な搜索、押収、機能の停止や中断、分離、解体、または分解を受けることがない

- Freedom of morphology:

一時的または永続的な身体の形状や形態の適応、変更、修正、または増強を通じて自己を表現する自由を有する。同様に、強制された、または他の方法による不本意な形態的变化から自由である

- Equality for mutants:

法的に認められたミュータントは、自然人に与えられる全ての権利、利益および責任を享受する

Ⅱ. トランスヒューマンの権利に関する主張

- Right to bodily sovereignty:

いかなる者として行動しているかにかかわらず、自己の身体およびその領域内で、知能、エージェントおよびそれらの活動に対する支配権を有する

- Right to organic naturalisation:

生命維持に不可欠またはそれを支える身体システムに対する、搾取的または侵害的な第三者の所有権から自由である。長期的な目的のために、貼り付け、装着、埋め込み、移植、注入または他の方法で人の身体に永久的に統合された第三者の所有物について、合理的な所有権の発生を受ける権利を有する

Ⅲ. トランスヒューマンの権利の法的保護の可能性

- トランスジェンダーからトランスヒューマンへ：

Martine Rothblatt

ジェンダーアイデンティティの議論を、「トランスヒューマニズム」の領域に拡張し、個人がジェンダーを選択・再定義できるように、将来の技術発展によって人間の生物学的限界を超越し、多様で自己選択的なアイデンティティや形態を表現できる可能性を提案する。また、生物的制約を完全に超越し、デジタルまたはハイブリッドなアイデンティティの可能性も開かれると主張する

⇒基本的権利としての自己定義したアイデンティティや身体表現

Ⅲ. トランスヒューマンの権利の法的保護の可能性

- 憲法上の身体に関する権利：

憲法13条での生命・身体に対する権利は、公権力によってみだりに侵害されない権利として理解されてきた

⇒主として個人の選択や自己決定を内実としない「存在の保障」にあたる(中山、2020)

性別変更の場合の身体に関する権利：

「**自己の意思に反して**身体への侵襲を受けない自由」

(最高裁令和5年10月25日大法廷決定)

Ⅲ. トランスヒューマンの権利の法的保護の可能性

- 人間的身体に関する自己決定権？

自己の身体の変更(不変更)と結びつくアイデンティティの選択において重視される本人の意思や自己決定:

ドイツ 性転換法→自己決定法

⇒すでに法的に保護された形態的自由の一側面(自己の意思に反する身体の変更を強制されない)を超えて、弱いトランスヒューマニズムに基づく、人間的身体を自己の希望、ニーズ、目的に応じて変更する自由、あるいはアイデンティティの選択に伴う人間的身体の自己決定権を考える余地はあるだろうか？

参考文献

- ・生駒夏美編『リベラルアーツで学ぶポストヒューマン』（東信堂、2024年）
- ・朱穎嬌「トランスヒューマニズムの倫理的・法的問題と人間の尊厳」憲法研究12号（2023年）205-228頁
- ・中山茂樹「生命、自由及び幸福追求に対する権利に関する一考察」同志社法学72巻4号（2020年）679-714頁
- ・Anders Sandberg, Morphological Freedom: what are the limits to transforming the body, in: Cristina Lindenmeyer (ed.) *L'humain et ses prothèses: Savoirs et pratiques du corps transformé*, NRS Éditions, 2015.
- ・Aura Elena Schussler & Maurizio Balistreri (eds.), *Metahumanism, Euro-transhumanism and Sorgner's Philosophy Technology, Ethics, Art*, Trivent Publishing, 2024.
- ・Martine Rothblatt, *From Transgender to Transhuman: A Manifesto On the Freedom Of Form*, 2011.
- ・Julian Huxley, *New Bottles for New Wine*, Chatto & Windus, 1957.
- ・Max More & Natasha Vita-More (eds.), *The Transhumanist Reader: Classical and Contemporary Essays on the Science, Technology, and Philosophy of the Human Future*, Wiley-Blackwell, 2013.
- ・Murilo Vilaça et al., Transgender people, transvestites, and transhuman rights: The case of morphological freedom, *Saúde em Debate* 47(1), 2024.
- ・N. Katherine Hayles, *How We Became Posthuman: Virtual Bodies in Cybernetics, Literature, and Informatics*, University of Chicago Press, 1999.
- ・Stefan Lorenz Sorgner (Spencer Hawkins trans.), *On Transhumanism*, Pennsylvania State University Press, 2021.
- ・Stefan Lorenz Sorgner, *We Have Always Been Cyborgs: Digital Data, Gene Technologies, and an Ethics of Transhumanism*, Bristol University Press, 2021.



ご清聴ありがとうございました

本研究は、JSTムーンショット型研究開発事業JPMJMS2215の支援を受けたものである。